◇巻頭言◇

未来につなぐ創立百周年事業

夕陽会副会長　伊藤皓嗣（昭和44年卒）

来年、創立百周年を迎える夕陽会。

第一回卒業生六十八名が母校を巣立ったのは大正七年三月、同窓会が発足したのはその年の九月。北海道函館師範学校開学の精神「土地墾闢人民蕃殖」を脈々と受け継いできた。

百年の歩みに、「時代」が重なる。全寮制の時代。柔道部や蹴球部が全国大会へ進出した時代。講習科・専攻科・研究科・養成科・予科が設置された時代。学徒出陣、勤労動員に従事した時代。校名の改称・学部名や学科の改組が続く中で、歴史を担った先達の心意気が伝わる。

当初、「函館師範学校同窓会」という名で始動した本会は、平成八年より「北海道教育大学夕陽会（略称・夕陽会）」と称し、母校の伝統を紡ぎ、発展してきた。理念である北海道の拓殖教育精神を貫いてきた先輩たちは、鯨風鰐雨が襲ってきても、濁浪が大海を逆まいても、燦たる北斗を望みつつ、理想の教育を目指し、実現してきた。しかし、先の大戦に出征し、戦死や戦病死した先輩も多い。復員してからも、戦後教育の混乱や改革による計り知れない苦労があったに違いない。

時代のもたらす課題と向き合いながら、夕陽会は、その後、国立函館大学設置期成会募金・校舎増改築促進募金・国際交流事業募金など、母校を支援する活動も進めてきた。また、研修事業の教育フォーラムを開催し、美術展・書道展・音楽会の文化事業はそれぞれ十回を数える。

近年は〝母校の教育学部を国際地域創造学部（仮称）に改組〟という案に対し「道南の教育を考える会」を設置。母校・会員・地域の熱意を束ね、教員養成機能存続決定の中核となった誇りを記憶に刻んでいる。

日現在を生きる我々は、先輩の残した功績を尊びつつ、会員の多様なジャンルでの進展を願い、未来への確かなバトンタッチを祈っている。

今、夕陽会は「創立百周年事業実行委員会」を設置。将来の会員となる母校学生も参加し、未来につなぐ記念事業とする構想を練っている。

かつて母校の正面玄関であった国指定登録有形文化財「北方教育資料館（夕陽記念館）」。夕陽会百年の歴史と変遷、学生や会員の努力と活躍、そして、未来につなぐ挑戦を見守り、支え続けてくれるだろう。

夕陽会創立100周年記念特集

巻頭写真が語る 郷土 変わり行く時 節目の時

－平成10年代－

「函館駅／新旧交代」
第180号　平成15年７月

「五稜郭ツインタワー」
第188号　平成18年３月

「懐かしのチボリ・杉の子・紅葉軒」
第191号　平成19年３月

「高速フェリー　ナッチャン　Rera」
第193号　平成19年12月

「昭和30年　十字街界隈」
（高井　信行氏撮影）
第181号　平成15年12月

「平成25年　十字街界隈」
（市電開業100周年／左写真より58年後）
第209号　平成25年３月

受賞（章）おめでとうございます

✻瑞宝双光章（高齢者叙勲9／1）
水野　良弘　氏（昭25年卒）
函館市富岡町二の一六の五

✻瑞宝双光章（高齢者叙勲10／1）
三浦　牧男　氏（昭25年卒）
札幌市手稲区新発寒五条六丁目一六の二〇

✻地方教育行政功労者
文部科学大臣表彰
山田　律子　氏（昭41年卒）
千歳市信濃四の一四の二

✻平成二十九年度
北海道教育功績者表彰
毛利　繁和　氏（昭55年卒）
函館市立本通中学校長

✻平成二十九年度
北海道教育功績者表彰
山田　幸俊　氏（昭56年卒）
函館市立神山小学校長

✻平成二十九年度
北海道教育功績者表彰
小助川　浩　氏（昭59年卒）
厚沢部町立厚沢部小学校長

✻瑞宝双光章（昭29秋の叙勲）
田村十一郎　氏（昭32年Ⅱ卒）
七飯町鳴川一の一四の八

✻瑞宝双光章（昭29秋の叙勲）
橋本　博　氏（昭33年Ⅰ卒）
江別市大麻中町二六の一九の一一〇六

✻函館市文化団体協議会
青麒章
下山　訓　氏（平4年卒）
函館市立銭亀沢中学校教諭

✻札幌市自治振興功労者表彰
蚪川　輝行　氏（昭32年Ⅱ卒）
札幌市北区新琴似六条三丁目二の五

会務報告

幹事長
永井　貴之
（昭和63年卒）

《一般会務》

5／26　第2回役員会を開催する。（函館）

6／8　第3回本部役員会、顧問・参与会議を開催する。（函館）

6／17　平成29年度全国支部長会議・本部総会・懇親会を開催する。（函館）

7／14　渡島支部支会長会議に藤川会長が出席する。（函館）

7／14　夕陽フォーラムを開催する。（函館）

7／29　明日の教師塾を開催する。（函館）

9／9　五分校会長・理事長会議を開催する。（函館）

9／20　第3回100周年記念事業実行委員会を開催する。（函館）

10／14　道央ブロック会議に藤川会長と青柳副会長が出席する。（札幌）

11／4　道東ブロック会議に藤川会長が出席する。（弟子屈）

11／20　100周年記念誌掲載のための学生との座談会に藤川会長と絵面副会長が出席する。（函館）

12／8　第1回本部役員会を開催する。（函館）

12／9　指導主事等会の学習会に藤川会長と永井幹事長が出席する。（札幌）

《支部総会・懇親会・同期会・個展など》

6／21　福島支会総会に天野副会長が出席する。（福島）

6／23　鹿部支会総会に藤川会長が出席する。（鹿部）

7／4　木古内支会に藤川会長が出席する。（木古内）

7／13　森支会に白川副幹事長が出席する。（森）

7／13　松前支会に永井幹事長が出席する。（松前）

8／19　鶴陵会渡島支部に藤川会長が出席する。（函館）

9／23　高校支部に藤川会長が出席する。（函館）

11／4　六稜会渡島同窓会に永井幹事長が出席する。（函館）

11／18　北師同窓会渡島支部総会に藤川会長が出席する。（函館）

12／2　札幌支部大忘年会に藤川会長が出席する。（札幌）

12／2　岩手支部総会に永井幹事長が出席する。（奥州）

（平成二十九年十二月十日現在）

北海道教育大学夕陽会　１００周年記念事業日程一覧

平成３０年６月２３日（土）　ホテル函館ロイヤル

＊全国支部長会議　　１３時３０分～１４時３０分
＊平成３０年度総会　　１５時００分～１６時００分
＊１００周年記念式典　　１６時３０分～１７時３０分（約３００名を予定）
＊１００周年記念祝賀会　１８時００分～２０時３０分（約８００名を予定）
・祝賀会については、２会場で開催いたします。

平成３０年６月２４日（日）　北海道教育大学函館校キャンパス

＊記念講演会　　１０時００分～１１時３０分（約３００名を予定）
・講演会には、会員はもとより学生や地域の方々にも参加いただけるよう、広報活動を工夫いたします。
・講師につきましては、職種や年齢を問わず、多くの皆様が興味をもってお話を聞いていただける方に依頼中です。

＊キャンパス見学など　　１１時３０分～
・キャンパスの施設や夕陽記念館の見学、学生との交流などを計画しております。
・学生時代を思い出しながら学食で昼食も楽しんでいただけるよう、準備を進めております。

※　講演の講師のお名前や演題、祝賀会等の申し込み方法などにつきましては、３月に発行されます「夕陽会報」２２４号にて詳しくお知らせいたします。

お詫びと訂正

前号２２２号で、次のようにお名前や卒業年次、月日等に誤りがございましたのでお詫びして訂正いたします。関係する皆様には大変ご迷惑をおかけしました。

○ **５ページ　夕陽会懇親会の記事文中**
（誤）　奥田敏樹渡島管内教育委員会教育長会長　→　（正）　與田敏樹渡島管内教育委員会教育長会長

○ **９ページ　受賞者一覧**
（誤）　佐藤　哲也　氏　→　（正）　佐藤　哲哉　氏

○ **12ページ　夕陽会員訃報　下段**
（誤）　深栖　久佳　氏　昭和39　Ⅱ　→　（正）　深栖　久佳　氏　昭和39　Ⅰ
１１１１１ 29. 4. 28　　29. 4. 26

北海道教育大学夕陽会創立100周年記念
『美術・書道展』開催のお知らせ

平成30年６月23日（土）開催の記念式典・祝賀会、24日（日）開催の記念講演会にあわせて、下記の日程で北海道教育大学夕陽会創立１００周年記念「美術・書道展」を開催いたします。会員の皆様には、多数の出品並びにご観覧いただきたくご案内申し上げます。

◆ 会　期　　平成30年６月21日（木）～24日（日）

◆ 会　場　　北海道立函館美術館　※オープニングセレモニーを21日（木）に行います。
（〒040－0001　北海道函館市五稜郭町37番６号　☎0138－56－6311）

◆ 観覧料　　無　料
※常設展も本展覧会の会期中は無料とさせて頂きますのでぜひ観覧ください。

《出品について》

◇ 出品者　　平成30年３月までの卒業会員および在籍学生
（夕陽会員・北海道教育大学函館校の関係者であればどなたでも出品できます。）

◇ 出品料　　無　料（制作にかかる費用、額、裏打・表具等は出品者の自己負担となります。）

◇ 搬出入　　□搬入日　平成30年６月20日（水）
□搬出日　平成30年６月24日（日）
※ご本人または代理人を経由して会場で確認して搬出願います。

◇ その他　　詳細は下記窓口へお問い合わせください。

❖運営委員長：知内町立知内中学校内　仲井　靖典　☎01392－5－5024
❖書道部門窓口：函館市立亀田中学校内　葛西　広治（青龍）☎0138－46－3005
❖美術部門窓口：函館市立椴法華小学校内　木村　伸仁　☎0138－86－2051

教壇で活躍する若き夕陽教師たち

日々勉強、日々成長

千葉　慎司

（平成28年卒　函館市立五稜郭中学校教諭）

私は北海道教育大学函館校を卒業し、五稜郭中学校に勤務させていただき、二年目になりました。私自身、道外の出身なのですが、縁あって、大学の四年間を過ごした函館で教員人生を始められたことを心から嬉しく感じております。

二年目となる今年、昨年との一番の違いは「担任」として、自分の学級を持ったことにあります。一年目はあこがれていた担任業務ですが、実際にやってみると、生徒を学級活動を通して成長させていくことの難しさを痛感しております。あらゆる場面で臨機応変な対応が求められ、生徒に対する声がけ、指導の在り方などが本当に正しかったのか、先輩教員だったらどのような対応をしただろうかなどと苦悶する毎日です。昨年度、副担任として、担任の動きをもっとみて、気になる点は質問したりするなど、すべきことがあったのだと後悔するばかりです。

しかし、そんなときでも校長先生、教頭先生をはじめ、先輩の先生方から多くのアドバイスをいただき、助かっています。特に、同じ学年団を組んでいる先生方からは「行事に向けて生徒をどのように持って行くか」、「生徒一人ひとりが自己有用感を持てるような学級組織をどのようにつくるか」など、日々、多くのことを学ばせていただき本当に感謝しております。

そして、疲れきった身体に活力を与えてくれるのはやはり生徒です。生徒と関わる中で、その笑顔や言葉に何度救われたか、分かりません。「この生徒たちのために、もっと教材研究をしてわかりやすい授業をつくろう」「もっと生徒指導や学級経営を勉強しよう」と、私自身の成長を促してくれる存在です。これからも、一人ひとりの生徒に全力で向き合い、日々成長していきたいです。

最後になりますが、夕陽会の先輩の皆様には今後ともお世話になることと思います。その際には、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いします。

毎日の反省と後悔から学ぶこと

三國　勝広

（平成29年卒　函館市立宇賀の浦中学校教諭）

（平成二十九年に北海道教育大学函館校を卒業し、この春から函館市立宇賀の浦中学校で勤務しております。教員を目指すことを決め、多くの方に学びを受け、支えられたこの函館の地で教員をできることに幸せと感謝を感じながら仕事をさせていただいています。

教員になり半年が過ぎましたが、指導力不足を痛感させられており、戸惑いや悩みが絶えない毎日です。自分の言動は果たして正しかったのだろうか、今日の授業ではああすればよかった、こうすればよかったなど、振り返ってみると後悔と反省ばかりしています。働けば働くほどこの仕事の深さを感じ、自分は果たしてこの先信頼される指導力のある教師になれるのだろうかと不安にも思っています。この半年間、毎日これで良いのだろうかと自分を振り返り、評価していくこと、そして、それを実践していくことで自分を成長させてきましたが、自分の頭の中で思っていることと、生徒に伝わることの違いで、生徒に誤解を与えてしまったことは、今でも深く反省しています。しかし、その経験から教師の目線と生徒の目線を両方持つこと、それを考えながら生徒に接することを学び、実践しているところです。また、失敗したときには、校長先生、教頭先生、学年団の先生、部活の先生など、たくさんの人に支えられて半年の間仕事ができたと感じていますし、感謝しています。これから先、たくさん迷惑をかけながら教師をやることになりそうですが、生徒から逃げずに毎日反省をしながら生徒にぶつかっていきたいです。生徒が学校でたくさんのことを学ぶように、教師も生徒以上に学び続け、深みのある教師を目指していきたいです。

最後になりますが、夕陽会の諸先輩の皆様には今後ともお世話になることと思います。ご迷惑をおかけすることもあるとは思いますが、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

学校現場を支える夕陽会員たち

先輩の背中を追いかけて

藤谷貴代
（平成29年修了　北海道教育大学附属函館幼稚園教諭）

今春三月に北海道教育大学大学院函館校学校教育専修を修了し、はや九か月がたちました。

私は、平成三年に他大学を卒業、教員として今年で勤務二十七年目になります。初任地の長万部町立蕨岱小学校から檜山・渡島管内計四校の小学校に勤務し、主に低・中学年を担任しました。また「図画工作科」、「生活科」「総合的な学習」での効果的な指導方法について研究を重ねてきました。その中で、子供の置かれている環境や義務教育以前の経験を生かすことによって更なる「育ち」が生まれることを実感しました。そして、この実感を価値付けたいと考え、大学院の門を叩きました。現在は大学院で研究した幼稚園と小学校の教育課程の在り方について、勤務校である北海道教育大学附属函館幼稚園において研鑽を積んでいます。

初任当時、仕事のイロハも分からない私は、諸先輩方より授業の組み立て、学級経営の仕方、校務分掌への取組み方、教師としての配慮や責任等、教師の在り方や心得について夕陽会の諸先輩から多くのご助言をいただきました。また、研究会等の大きなプロジェクトでは、「チーム夕陽」としてのお力添えも頂きました。子供と正対する姿からは実践の深さと姿勢を学びました。時に、私が附属中出身であることを話すと「僕も附属中で教育実習をしたよ。」と、同窓ではないにも関わらず気に掛けてもらい、心強く思ったものです。我々が困った時に直ぐ相談でき、憧れの姿を目指して、迷い無く今の道に進めたのも、あの時夕陽会の諸先輩に助けて頂いたからと感謝の念に堪えません。

今後も道南地域の子供たちの教育のために、誠心誠意頑張りたいと考えています。そして、先輩達が自分にしてくださったように、若い人達へのサポートをすることが、先輩達への恩返しになると思っています。

今後ともどうぞよろしくお願い致します。

全てを糧にして

貞吉里緒
（平成26年卒　函館市立日新中学校事務職員）

北海道教育大学函館校を卒業したのち、平成二十七年四月より、函館市立日新中学校で事務職員として勤務しております。早いもので今年で三年目となりました。三年間は私にとってはあっという間の日々で、未だにあまり実感が沸きません。

一年目の頃は、とにかく慣れることに必死でした。期限付として勤務した経験があっても、まだまだ知らないことの方がずっと多い状態で、学校には一人配置。それを理解して就いた仕事ではありましたが、やはり心細いものでした。環境も仕事も新しいことだらけの中で、職員の皆さんや他校の事務職員の皆さんの助けをたくさん借りながら過ごしてきた日々だったと改めて感じています。

振り返ると、今現在に至るまで失敗や後悔の多い毎日です。一年目の頃と同じように、周りの方々の力を借りながら、何とか乗り越えられているような状況です。

特に、事務の研修会には積極的に参加していつも助けて頂いています。他校の事務職員の方々と話すのはとても勉強になりますし、いい刺激にもなります。全道大会にも毎年参加して、函館市内や渡島管内の学校だけでなく、全道の様々な学校での事例や研究に触れることで、より多くの知識を得ることが出来ていると感じます。

これからは得た知識をもっと有効に活用して、子どもたちや先生方にとっても学びやすく過ごしやすい環境に出来るよう尽力していきたいと思います。失敗や後悔を糧にして、成長していきたいと思います。

最後になりますが、夕陽会の諸先輩の皆様には、今後ともお世話になることと思います。その際には、ご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

道央ブロック会議を開催して

夕陽会札幌支部幹事長　本　間　雄　一
（昭和58年卒）

平成二十九年十月十四日（土）札幌サンプラザホテル「高砂の間」において、平成二十九年度北海道教育大学夕陽会の道央ブロック会議が開催されました。

道央ブロック会議は、夕陽会石狩支部、空知支部、小樽支部、札幌支部、後志夕陽会の道央五地区が一堂に会して、各同窓会の活動状況の報告や運営上の諸問題、その対応について、協議、交流する場となっております。会場は、毎年持ち回りで行われているため、道中、その地域の自然や環境にも触れながら、改めて北海道の広さや地域ごとの違いを感じて、同窓の絆を深めながら時間を共有しております。今年は、小樽支部開催の予定を、来年度札幌支部が九十周年を迎えることもあり、順番を変えていただく配慮を賜り、改めて感謝申し上げます。

本部100周年のお知らせをする藤川会長

会は、前半は、会議そして後半は懇親会という二部制で行いました。

ブロック会議には、本部から藤川隆会長と青柳史匡副会長にもご臨席いただき、各支部からは、支部長、副支部長、幹事長など四～五名が出席し、札幌支部の役員を含めて三十一名が出席しておこなわれました。

本間　玲支部長の開会挨拶

会議の冒頭では、藤川会長から、来年六月に開催が決まった夕陽会本部百周年の記念式典のことや、様々な趣向を生かした記念事業のお話があり、現役学生も交えたキャンパス全体でのお祝いの様子が紹介されました。

会議では、各支部の新会員の採用状況や管理職登用に関する人事上の課題、ミドルリーダーや初任者層のライフステージに合わせた研修会の企画など、同窓会離れが進んでいく中であっても、同窓会の意義を積極的に発信し、同窓意識の高揚や会費の納入率の向上に向けての取組などが話し合われました。

小中学校の統廃合や現職員の高齢化と大量退職の時代を迎えてのミドルリーダーの育成が急務であり、特色のある研修会の企画や、本部の若手枠の研修助成制度や研修補助金等を活用しながら、教育の今日的課題の研修に努めている支部の報告もありました。また、適正配置計画による各地区での統廃合の加速化は、職員数の減少と共に夕陽会会員の減少にもつながり、深刻な課題として挙げられました。

今後の同窓会としての新しい問題としては、大学学部改編などから、教職員以外の会員の参加をどう高めていくかという課題があり、これからの夕陽会の活動を考えた場合、教職員以外の会員へも積極的に情報を発信できる活動の取組が必要であり、組織の維持・拡大に向けて今後の情報交流を深めていく必要性を改めて感じながら会議を閉じました。

道央ブロック会議の様子

その後の懇親会では、各支部で中心的に活動している昭和五十年代後半から六十年代前半の卒業生が集い、当時の大学の部活動や研究室での様子の他、学生時代にお世話になった食堂やお店の話題になったり、久しぶりにお会いした先輩や後輩たちとの再会に、時間を忘れ懇親を深めていました。

来年度の道央ブロック会議は、小樽市での開催です。また新たな課題に向かって取り組んでいる同窓各支部の活動の様子を交流し、参考にさせていただきながら、更なる会の維持・発展に努めていけることを願っています。

平成二十九年度 夕陽会道東ブロック釧路会議を終えて

夕陽会釧路支部幹事長　鳴　海　厚（昭和58年卒）

（平成二十九年十一月四日（土）弟子屈町川湯温泉にある川湯観光ホテルにて、「平成二十九年度夕陽会道東ブロック釧路会議」を開催しました。

川湯温泉は、昭和の大横綱「大鵬関」の故郷でもあり、昭和世代以外の方々でも知っている方は多いのではないかと思います。

開催当日は未明から降り始めた雪が降り積もりましたが、開催時刻には雪も降り止み、予定通りの開催となりました。

「夕陽会道東ブロック会議」は、道東に集う「帯広十勝支部」「釧路支部」「根室支部」「網走連合支部」の四支部が交流を深めることをねらいに、毎年この時期に開催しています。

この会議を始めた経緯についてOBの方に話を伺ったところ、「正式な資料は残っていないのですが、確か、昭和の終わり頃、釧路管内にある阿寒湖温泉からスタートしたように聞いています。その後、四管内持ち回りで現在に至っているのではないでしょうか。」とのことでした。

そうすると、今年で三十年を越える歴史があることになります。あらためて道東地区に住む先輩の皆様の「夕陽」に対する熱い思いを感じました。私自身も教頭に昇任してから、学校行事等がなければ毎年参加してきましたが、いずれの時もそれぞれの地区の特色が色濃く出された会議でした。

私が三度ほど携わった「釧路会議」では夕陽出身の教育局長の講話や釧路市美術館に勤務する同窓の講話、そして、前回の釧路会議では釧路支部OBが運営される「釧路湿原美術館」で研修会を開催しました。また、他の支部に目を移すと、今日的な教育課題に関わる講話や各地の歴史、風土を学ぶことのできる施設見学など、幅の広い研修も行ってきました。さらに、研修会終了後は懇親交流の場を設け、各地自慢の食材に舌鼓を打ちながら、旧交を温め、交流を深めてきたところです。

さて、今回の「夕陽会道東ブロック釧路会議」ですが、今年三月に新学習指導要領が告示され、教育改革が加速化する中、夕陽会員の資質・能力の向上を図るため、今年四月に釧路教育局に着任された鈴木　淳局長からご講話いただけるよう準備を進めました。その結果、鈴木局長から快諾をいただき、研修の機会を設けることができました。また、道東各支部の役員が一堂に会することから、夕陽会本部　藤川　隆会長からも夕陽会本部や母校の様子について情報提供いただくこととしました。

研修会では藤川会長、鈴木局長をお迎えしたほか、各支部の支部長、副支部長、幹事長など総勢二十七名の参加がありました。

「夕陽賛歌」で幕を開けた釧路会議ですが、冒頭、主管である釧路支部を代表して大森　伸支部長（釧路市立青陵中学校長）が挨拶し、藤川会長からもご挨拶をいただきました。

その後、研修会に移り、「これからの学校教育について考える」をテーマに鈴木局長よりご講話いただきました。その中で、これからの北海道の教育課題やそれぞれの役職に応じた解決の方向性について、貴重なご示唆もいただきました。

続いて、夕陽会本部藤川会長からは次年度開催される夕陽会一〇〇周年記念事業の詳細並びに母校の学生の進路状況などについて説明いただきました。

引き続き行われた懇親交流会は、特別ゲストとして地元弟子屈町教育委員会の小林俊夫教育長様をお招きし、盛大に開催されました。懇親会の中では恒例となった「支部紹介」を行い、それぞれの支部や会員の近況について交流しました。道東にいる夕陽会員が年々減少し、現役会員の先細りも心配される中、今回の交流会には平成十～二十年代卒業の会員も多数参加し、「夕陽」の襷を次の世代につなごうとする参加者の強い思いを感じました。

交流会の最後には参加者全員が輪になって「寮歌」を大合唱し、次年度の開催地である帯広十勝での再会を約束して幕を閉じました。

他の地区においてこのような集まりがあるかどうかは分かりませんが、「夕陽のつながり」の素晴らしさを感じる機会であることは間違いありません。

我々、道東地区の夕陽会員も夕陽会のさらなる発展を願いつつ、近隣の「夕陽の絆」を深めていきたいと思います。

夕陽会創立百周年に寄せて
―資料・写真で読み解く―
「母校・同窓会百年歴史秘話」その五

須藤由司（昭和52年卒）

▼つづき―前号は「総会特集」のためお休み。あと二回の連載では、「**母校・同窓会一世紀**」をおおよそ前・後半に区切り、その充実・発展していく過程を「**周年記念誌や校史等で読み解く函館校・夕陽会の略年史**」として振り返ってみる。今回は、開学・創立から昭和三十年代までの母校や夕陽会の歩みを取り上げていく。

【大正・昭和戦前期―開校・創立、黎明の頃】図1

母校は大正三年（一九一四）に函館師範学校として開校し、平成二十六年（二〇一四）、百周年を迎え式典を開催。同時に記念誌①を発刊し、その中で「函館校百年略史」において昭和以降の「周年記念誌・校史」を紹介している。一方、同窓会は第一回卒業式が行われた大正七年（一九一八）に設立し、来年、平成三十年（二〇一八）、「**紀寿**」を迎え盛大な行事・事業が予定されていることはご承知のとおり。さて、学校等においては、十年ごとの節目に周年行事を実施することがあり、今年は昭和二十二年の（新制）中学校発足・開校から数えて七十周年を迎えた中学校が式典等を実施し、その様子が新聞で紹介されている。

母校は、大正十三年（一九二四）に「**創立十周年記念式典**」を実施。同窓会は、その前年に「会報準備号」②、記念式典後の年末には「同窓会報第一号」③を発行し、会長（校長）、幹事長が祝文を寄せるとともに、初めての周年事業を記録している。同窓会報発行により、活動が軌道に乗ってきたことが伺える。次に、昭和九年（一九三四）が創立二十周年となる訳であるが、同年三月の函館大火により延期せざる得なくなり、昭和十一年（一九三六）、「**創立二十五周年記念式典**」を行い、初の校史と言える「函館師範学校創立二十五年史」④を発刊。同窓会は前年、「会報№15・同記念準備号」⑤を発行した。この時期、同窓会の地方組織が徐々に充実し、全道で十八支部にも及んだ。戦前期最後の周年事業は、昭和十六年（一九四一）の「**創立三十周年記念式典**」。このときは、「函館師範学校盡忠學徒隊（尽忠学徒隊）」（注：校友会）が「同記念誌」⑥を発行している。

図1　第24回（昭和16年）卒業記念写真帳

【昭和戦後期―復興の頃】図2

昭和二十年終戦。母校は昭和十八年（一九四三）に北海道第二師範学校と校名変更となり、昭和二十四年（一九四九）、新制大学、北海道学芸大学函館分校として歩み始めた。

この当時の同窓会の話題では、昭和二十三年（一九四八）、戦後初の会員名簿（第二師範学校当時）を発行（会則未掲載、夕陽会の名称は無い）。夕陽会の名称が会則や名簿上に表記されるのは、その後、戦後二号目となる昭和二十七年（一九五二）発行の会員名簿（学芸大学函館校当時）に見ることができる（注：「その二」参照）。また、同窓会の会長は、函館師範学校時代まで校長が当てられていたが、第二師範学校時代からは会員より選出することとなり、同窓会の充実ぶりが伺える。

母校は、終戦直後の昭和二十二年（一九四七）、「**北海道第二師範学校創立三十五年並女子部設置祝賀記念式典**」を行い、記念誌⑦を発刊している（注：「その四」参照）。復興まならないこの時期の開催等に、母校・同窓会の心意気を感じる。その後、母校は昭和二十七年（一九五二）「**創立四十周年式**」、昭和三十九年（一九六四）「**創立五十周年式**」を挙行している。その間、二年課程から四年課程に振替、そして、新校舎建築、教育大学へと発展していく。同時に夕陽会も会員の増大、組織・活動の充実が図られていく時期を迎える。

こうして前半½世紀を周年式典・記念誌等で概観すると、母校開校・同窓会創立期から戦前・戦後初期の様子や社会の状況が読み取れるが…。紙幅の関係（執筆者の筆力？）で各資料の詳細の紹介・分析等は別の機会に…適任者に…。

▼つづく―「母校・同窓会の前半五十年」いかがでしたか。次号はいよいよ最終回、「後半五十年」、特に「夕陽会八十年」「夕陽会九十年」の時期にスポットを当てていく予定です。そして、いよいよ「夕陽会一〇〇周年」を迎えます。資料・写真などをお持ちの方はご一報ください。感想や助言、お待ちしています。

図2　創立35年・女子部設置記念誌

※参考文献
①「**函館校の百年**」二〇一四・平二六　北海道教育大学函館校
②「**同窓会報準備号**」一九三三・大一二　函館師範学校同窓会　＊夕陽記念館蔵
③「**同窓会報第一号**」一九三四・大一三　函館師範学校同窓会　＊夕陽記念館蔵
④「**函館師範学校創立二十五年史**」一九三六・昭一一　北海道函館師範学校　＊北教大図書館函館館蔵
⑤「**同窓会報№15函館師範学校創立二十五年記念準備号**」一九三六・昭一一　北海道函館師範学校同窓会　＊夕陽記念館蔵
⑥「**函館師範学校創立三十年記念誌**」一九四一・昭一六　北海道函館師範学校盡忠學徒隊　＊函館中央図書館蔵
⑦「**北海道第二師範学校創立三十五年並女子部設置祝賀記念誌**」一九四七・昭二二　北海道第二師範学校創立三十五周年記念並ニ女子部設置祝賀協賛会　＊夕陽記念館蔵

支部だより

日高支部だより

日高支部長　金澤　覚
（昭和60年卒　新ひだか町立三石小学校長）

「日高では、学校で石を投げれば、夕陽に当たる」これは、私が三十二年前、日高管内に初任で赴任した時、夕陽の先輩方の口からよく耳にした言葉です。当時の日高管内は夕陽の先生がとても多かったというのを喩えて言った言葉です。

大学を卒業したてで、初めての土地に赴任することになった私にとっては、同窓の先生方が周りにたくさんいらっしゃると思えて、とても心強く思えた言葉でした。しばらくしてからは、日高の教育は自分たち夕陽が引っ張ってきているのだという自負にも聞こえてくる言葉でした。私が採用されたその時も、初任者六人が浦河に着任しました。そのうち三人が、その年一緒に函教大を卒業した仲間でした。

ところが、時間が経ち、今ではそんな日高もここ五年で夕陽の初任者は四人、今年、一昨年はいません。

平成二十九年度、名簿上の会員数はOB・OGが六十三名、現役六十九名（うち管理職十四名）、退職される先輩の数に対し、採用されて加わる若手の数が大きく下回り、現役会員の減少が大きな課題です。

自分も含め、この五年で今の校長の大半が退職します。日高に残る管理職やミドルリーダーを育てることが大きな課題となっています。

この課題については、夕陽会日高支部だけの問題ではなく、日高管内全体の課題です。かつては、独自で学習会や研修会等を行っていましたが、多くの支部と同じように、同窓にこだわることなく、これからの地域の教育を牽引する人材を管内全体で育てることが求められています。

このような中、先輩の会員が校長会の核となり、教頭会で夕陽教頭ががっちりサポートして取組を進めています。日高支部としては、夏に管理職やミドルを対象に学習会を行っています。今年度は本庁から川野主査をお招きして、これからの日高の教育について考えました。また、冬には若手会員が集まって、「若い会員の集い」を実施し、学級経営や教科指導等の指導力向上に向けた学習会を実施しています。

今後も、日高の一時代を築いてこられた先輩方の業績を礎に、会員相互の研鑽と交流の場として機能できるよう努めてまいりたいと思います。

胆振夕陽会支部だより

胆振夕陽会支部長　新沼　潔
（昭和59年卒　登別市立緑陽中学校長）

今年から胆振夕陽会の会長（支部長）を仰せつかりました昭和五十九年卒の新沼でございます。長年の懸案であった室蘭支部・苫小牧支部・胆振連合支部の三支部を統合して三年目となりました。新生胆振夕陽会として三年間、各活動も軌道に乗り、さらに改革を進め、息の長い活動を目指しているところです。

本支部ではまず六月に総会を開催し、年間計画や予算、役員体制等を確認しております。

その後、十月までの間に計四回（一日日程）の学校経営セミナーを開催し、後継者育成に努めています。内容は特別講師講話（今年度は前豊浦町教育長　田中了治先生・壮瞥町教育長　田鍋敏也氏等）や論文研修・教育法規研修・面接研修で夏季休業中には論文添削指導も行っております。この研修会には教育大函館校以外の卒業生も受講生として受け入れ、胆振全体の教育の向上を目指しているところです。このことからも今後は、教育大他校との連携をいかに進めていくかが課題であると実感しています。

また、十一月には役員・市町支部長会議を開催し、一月に行われる大懇親会について協議しています。

そして一月下旬には「胆振夕陽会大懇親会」を開催します。昨年度は本部永井幹事長にお越しいただき本部の情勢等をお話しいただきました。今年度は三年目であり初めて苫小牧市（グランドホテルニュー王子）で開催する予定です。大懇親会には例年OB・現役併せて一〇〇名ほどが一堂に会し、同窓の絆を温めています。

その他に若手・中堅教師向けには、若手中堅教員研修会を開催して若手の実力アップを目指して研修を深めているところです。また、年に二回程度「胆振夕陽だより」の発行も行っています。

現在、会員数は減少し続けています。卒業生ではあるが会員とならない方々も多くなり、これからの胆振夕陽会の在り方を考えていかねばならない時期と言えます。最近は各市役所・町役場・消防・警察・各事業所等に多くの卒業生が在籍しています。これまでの教育界に特化した同窓会から、いかに一般の卒業生を受け入れていくことができる同窓会へと変容していくかが、今問われているのだと思います。

私たちはこれまでの三支部を含めた歴史と伝統を継承しつつ、時代のニーズに合った同窓会を目指して活動してまいる所存であります。

前納会費納入会員名簿追加分

三条京子　札幌　昭30
蛇沼京子　函館　昭54
新濱美喜子　函館　昭54
守佳世子　函館　昭54
金谷美也子　函館　昭54
鳴海裕　函館　昭54
三島千春　函館　昭54
戸澤和彦　函館　昭54
嶋田聡　函館　昭55
中村吉秀　函館　昭54
奥野秀利　函館　昭54
渡辺朋子　函館　昭54
滝山田敏子　函館　昭54
伊藤克美　函館　昭54
市川泰子　函館　昭55
佐藤久道　七飯　昭53
沢田慶一　函館　昭54
櫻井恭子　函館　昭33

（敬称略　平成二十九年十一月二十日現在）

夕陽会員訃報

本間　克朗　氏　昭33　29・5・7
函館市湯川町3の43の7

中濵　秋　氏　昭25　29・5・17
七飯町大川9の24の11

武藤　光男　氏　昭14　29・6・24
札幌市西区宮の沢2の1の5の26　佐藤典子氏

木村　啓介　氏　昭32　29・7・11
札幌市厚別区もみじ台南3の16の11　マリ子氏

福永　英丈　氏　平3　29・7・13
長万部町長万部1の2　美保子氏

山田　幸夫　氏　昭28　29・7・23
札幌市手稲区星置3の6の26の10　一博氏

佐藤　義彦　氏　昭35　29・7・31
函館市日吉町2の30の3　紀子氏

前田　幸吉　氏　昭27　29・8・1
函館市柳町8の4　阿部佳恵氏

小林　武征　氏　昭41　29・8・24
函館市田家町18の11　昌代氏

弥靭院種臣　氏　昭42　29・8・25
札幌市手稲区星置2の8　美恵子氏

髙島　貞夫　氏　昭38　29・8・28
函館市美原4の28の26　昌子氏

義卜　雄一　氏　昭45　29・9・6
札幌市厚別区もみじ台北2の3の19　福子氏

竹内巌太郎　氏　昭27　29・9・16
函館市富岡町3の11の26　千枝子氏

畠山　慶一　氏　昭19　29・9・19
函館市柏木町16の41　喜久子氏

乳井　邦衛　氏　昭19　29・9・22
函館市柏木町40の18　イオ氏

御廐　貫雄　氏　昭16　29・9・26
札幌市北区あいの里4の6の10の12　セツコ氏

中村　弘　氏　昭30　29・10・2
函館市大川町13の13　濵方弥生氏

柿崎　利昌　氏　昭38　29・10・20
函館市桔梗4の29の16の8　陽子氏

塩越　光春　氏　昭26　29・10・26
函館市大川町9の13　弘子氏

前田　利久　氏　昭60　29・10・30
札幌市南区簾舞

森下　英治　氏　昭39　29・11・2
七飯町字大沼町297の9

石坂　新一　氏　昭40　29・11・9
函館市桔梗4の34の8

若竹　幸邦　氏　昭36　29・11・22
函館市桔梗3の15の10　慶子氏

染木　トミ　氏　昭28　29・11・27
函館市湯川町2の30の18　成吾氏

（平成二十九年十一月二十七日現在）

前納会費制度ご利用のお勧め

夕陽会本部通常会費の納入には、前納会費制度があります。ご退職された方は是非、この制度をご利用くださるようお勧めいたします。

前納会費納入会員は、会員名簿に納入者の○印を付して終身会員として、次のような特典が受けられます。

①記念品（人民蕃殖の白扇）の贈呈
その他不定期発行の記念品等の贈呈
②夕陽会報（年三回発行）と会員名簿（三年に一度の発行）の本人への贈呈
③前納会員への加入切り替えを会報に通知掲載、その他慶弔規定の適用

前納会費の額は、卒業年次により次の四段階になっております。

①大正年代の卒業生　五千円
②昭和年代の卒業生のうち昭和五十年までの退職者　一万円
③同じく昭和五十一年以降の退職者　二万円
④平成元年以降の退職者　三万円

ご希望の方は、本部（附属小学校内財政部担当）へご一報ください。振替用紙を送付いたしますので、簡単に手続きが済みます。

なお、函館市支部と渡島支部でも支部終身会員制度をとり、その推進・拡充を図っております。両支部とも終身会費は一万円であり、それぞれ特典があります。

編集後記

◆会報第二二三号をお届けいたします。今回も、皆様から多くの玉稿や貴重なお写真等をお寄せいただきました。この場を借りて心よりお礼申し上げます。

◆今号の巻頭写真は紅葉の香雪園です。今やネットを通して、函館の新しい観光名所になりつつあります。晩秋の紅葉は絶景です。

◆今回は、道央ブロックと道東ブロックより活動の状況を詳しく報告いただきました。札幌支部の本間様釧路支部の鳴海様に心より感謝を申し上げます。また、いつもながら支部だよりにご協力いただいている各支部にあらためて感謝申し上げます。

◆百周年記念事業の準備が着々と進んでいます。美術展・書道展への出品もお待ちしています。

（情宣部長　樫野　人範　記　昭60卒）

本部事務局へのご連絡などは、次の所へお願いいたします。

041-0806　函館市美原3丁目48番6号
北海道教育大学附属函館小学校内
夕陽会本部事務局
電話番号（0138）46―2235
夕陽会専用（0138）34―5520
FAX番号（0138）47―7376

題字　文化勲章受章者　金子賢蔵（鷗亭）氏（昭4卒）